

美しい森林づくり

「地元中学生が遊々の森で体験林業」

津軽森林管理署金木支署

平成 28 年度末に協定期間が満了となった中泊町立中里中学校と津軽森林管理署金木支署との「遊々の森」(名称:あすなる自遊モリ森)の協定を更新し、本年度も6月5日(月)と7月6日(木)に開催しました。

6月5日(月)は、中里中学校1年生56名を対象として、中里中学校体育館で片岡支署長から、森林や国有林等に関する森林教室を行い、ヒバの空中取り木苗作製のデモンストレーションを行った後、現地に向かいました。

現地到着後、生徒の皆さんは4~5名ずつの班に分かれ、職員の指導のもとに、カッターを用いて、ヒバの環状剥皮や剥皮部分への水苔巻き等の作業をそれぞれ分担しながら真剣に取り組んでいました。



森林教室(支署長)(6月5日)



空中取り木作製の様子(6月5日)

今回、作製した空中取り木が発根し、苗木として利用できるようになるのは、約3~4ヶ月後で、9月下旬には、その空中取り木苗をもって現地に植樹する体験を行う予定です。

また、7月6日(木)には、中里中学校2年生54名を対象に、昨年度、自分たちが植樹した空中取り木苗等の下刈・補植作業と樹木の測樹体験を行いました。

組毎に分かれ、前半1組が測樹、2組が下刈・補植を行いました。測樹では、輪尺と測竿を用いて林内のスギ外の樹木の胸高直径と樹高を職員から指導を受けながら測定し、野帳に記入しました。生徒の皆さんは、輪尺の読み方(2cmきざみ)に戸惑いながらも真剣に取り組んでいました。



職員から輪尺の使い方を教わる(7月6日)

下刈・補植体験では、下刈鎌を使用して昨年度、自ら植樹した空中取り木苗と山取り苗周辺の雑草の刈り払いを行うとともに、残念ながら枯れてしまった苗(殆どが山取り苗)を抜き取り、そこに新しいヒバ苗木の植樹もしました。



下刈の様子(7月6日)



植穴を掘る女子生徒(7月6日)

作業終了後には、生徒代表から、「枯れてしまったのは残念だけど、今度は大きく育ててほしい」「何年か後に自分が植えた苗がどうなっているか見に来たい」等の感想が述べられました。

9月下旬頃には、本年度最後の遊々の森での体験林業(植樹体験)を開催しますが、金木支署では来年度以降も、次代を担う生徒たちに、森林の大切さ等を伝えていきたいと考えています。